（別紙2）　令和　5　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1870103262		
法人名	一般社団法人　イージーケアネット福井		
事業所名	グループホーム　楽ちんの家　笑楽（新ユニット）		
所在地	福井市大久保町1-61		
自己評価作成日	令和　5年　11月　21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	令和　5　年　12　月　12　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当法人は、「施設入所イコールどこへも行けない」という概念を取り払い、行事・外出などアクティブな活動を多く取り入れ、「やりたい」「行きたい」「楽しみたい」の実現をモットーに、利用者様と共に考え、利用者様の声を聞きたくさんの行事・外出を実践しています。今年も、感染対策を行ったうえで、年間イベント回数60回以上目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は旧美山町の長閑な田園風景が見える場所に立地し、移りゆく景色を眺めて季節を感じることができる。法人理念である「やさしさと楽しさのケアを一緒に提供していきます」を実現するために、職員が活き活きとした表情で利用者に寄り添って介護を提供している。外出行事も多く、利用者との会話の中から要望・希望を聞き、計画を立案し出かけている。看取り経験がある職員も多い。振り返り研修を通して終末期ケアに対して更なる理解を深めて、利用者・家族の思いに沿ったケアが提供できるよう熱心に取組んでいる。フロアには高さが異なるテーブルを配置し、利用者が決められた場所ではなく思い思いの場所で過ごせるような体制を整えている。事業所内の壁紙やライトは落ち着いた雰囲気であり、穏やかな雰囲気の中で日常生活が送れるように工夫している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新入社員に対して個別に事業所理念のオリエンテーションを実施。朝礼前に理念の唱和を行っている。また、事業所内に理念を見やすい位置に掲示し意識づけを行っている。	法人理念の「やさしさと楽しさのケアを一緒に提供していきます」を玄関やホール等、随時確認できる場所に掲げ、朝礼前に唱和し職員間で共有すると共に日々の実践につなげている。	法人理念に基づいた個人目標を設定することで、より明確に日々の支援に取組む体制整備に期待したい。
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響はまだ続いているが、感染対策を行った上でボランティアの受け入れを行っている。自治会長とは定期的に状況報告や相談等行っている。	自治会長と随時連絡を取り合っている。またボランティア（紙芝居、ハンドマッサージ等）や保育園の訪問を受け入れている。地域行事にも参加し、地域住民と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	R5.7.20　市波町の健康サロンに講師として参加。地域の高齢者を対象に頭を使う認知症予防レクリエーションを実施する。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナが5類に移行した事に加え事業所でのコロナ感染もスタッフ内少数に留まっていた事もあり、5月、7月、9月と対面で行い地域の方々、ご家族様からご意見を頂きサービスに繋げることができている。	書面にて報告を行っていたこともあるが、現在は2か月ごとに対面にて開催している。会議では現状を報告し、意見交換を行っている。議事録を整理し、誰でも閲覧できる場所に置いている。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ほやねっと東足羽包括センターの職員に、毎月広報誌等を持って行き、状況報告や要望などについて聞き、関係作りをしている。地域の関連施設にもチラシやパンフレットを持っていった。	運営推進会議時に情報交換している。毎月広報誌を持参して地域包括支援センターを訪問して、状況報告や相談等を行い、協力関係を築いている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に身体拘束廃止についての資料を配布し周知している。玄関の施錠に関しては、日中帯は職員が手薄になる時間帯などやむ負えない場合は施錠することもあるが、施錠しなくても対応できるよう試行錯誤している。夜間帯20時～翌朝8時までは、防犯の為玄関を施錠している。	研修等を通じて、身体拘束に対しての理解を深めて日々のケアを実践している。職員同士で声掛けに対しても注意を払い、適切な対応を心掛けている。防犯上、やむを得ない状況の時には玄関施錠を行うが、日中はいつでも外に出られる状況である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	全職員に虐待防止についての資料を配布し周知している。また、虐待しない為に、アンガーマネジメントの手法活用するよう、現場スタッフに伝えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年も認知症実践者研修やリーダー研修を積極的に受け、権利擁護等に関する知識を取り入れ、職員会議でフィートバックしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約は、時間の調整を行い、代表・管理者が立ち会い、丁寧に説明を行い質問等に答えている。契約者に確認しながら納得が得られた上で、締結している。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所・面会時に日常の様子を説明し、要望や意見を聞いている。要望を言いやすい関係を築けるよう、担当制を導入している。利用者様の意見や要望を日常の会話等から拾い、サービスに活かしている。	毎月「担当報告書」を郵送し、利用者の状況や会議の内容を伝えている。面会・来所時に意見や要望を聞き、運営に反映している。家族会開催時に利用者が作った食事を一緒に食べる等、意見等が出やすい環境整備に取組んでいる。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が働きやすい職場を目指して、月に1回の笑楽会議、法人会議を行い、色々な意見や提案を聞き入れ、業務運営に反映している。	ユニットごとの会議や法人会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また職員が話し易い環境づくりにも積極的に取組み、意見や提案を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ワークライフバランスを考慮し、個人の生活スタイルや体調面等を把握し、個人の提案、要望を聞き入れ、職員が働きやすい環境を築いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修の実施や、自主的に自己研鑽の為に外部研修に参加したい際は、出勤扱いとし、個々のスキルを伸ばし、知識を得る機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症グループホーム協会に加入。コロナウイルス等による制限が緩和されたら相互訪問などの活動をしていきたいと思っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に利用者様及び家族様との面談を行い、要望聞いて取り入れて、安心して生活していただけるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の言葉や家族の感じている根本にある思いを引き出し、ケアに繋げている。家での様子など話を聞き、本人だけでなく家族を含め総合的な視点からその人の生活を把握し、本人らしい暮らしの継続を目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	笑楽での生活で何を大切にしたいか要望を聞き、個々のできる事に目を向けケアに取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	外出等の計画を一緒に行ったり、献立作りや調理、洗濯や掃除など、自宅での生活に沿った内容の提供に努めている。利用者間で協力しながら作業を共に行う事が出来ている。外出なども利用者さまの意向を聞き計画をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の体調や生活上での困り事等は、都度連絡を取り合い相談として決めている。日々の様子を伝えたり、面会時にも本人と家族が気を遣わずに過ごせるよう、努めている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所にドライブや外出を企画している。毎月職員のコメントを添えたお便りを出している。利用者様と共に暑中見舞のはがきを作り送った。コロナウイルスが落ち着いたら、以前のように行事や外出イベントへの家族参加も実施していきたい。	年間行事での外出以外にも、日常的にドライブに出かけたり、地域の商店への買い物や地区行事に参加することで、馴染みの人や場所との関係が途切れないような取組みに力を入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアに集まる時間を多く持ち一緒に制作等をしたり、職員が利用者様を巻き込む形で関係作りしている。利用者様同士で相手を気遣う様子や助ける姿も見られる。畑作業者や園芸等の外での活動をより多く取り入れて行きたいと思っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族に笑楽での日常の写真をアルバムにして渡したり、スマホに写真を送付したりした。退所の際は、参加できる利用者様と職員で送り出しをした。退所後にもご家族様に面会したりして繋がりを持つことができた。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的にコミュニケーションを多くとり、利用者様の想いを把握するように努めている。また、プラン更新時期やご家族来所時等に笑楽での様子や状態を伝える事で、ご家族様からも在宅生活時のより深い様子を知る事ができ、笑楽での生活に取り入れている。	日頃から話し易い関係性の構築を心掛け、日々の関わりの中での、ちょっとした発言や仕草などから利用者の思いや意向を把握できるように取組んでいる。得た情報は職員間で共有し、日々のケアに反映するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご自宅にある慣れ親しんだ茶碗等の食器類や家具を持参していただく事で、少しでも今までの暮らし方に近い環境で穏やかに過ごして頂けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の担当を決めて、適宜生活面での困り事や本人の要望を聞くと共に、日々のミーティングや職員会議で情報を共有し、より良いケアの方法がないか話し合いを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の本人の様子やご家族様からの情報をミーティングや介護記録にて共有し、正確な情報を把握する事で解決方法やより良く暮らすための方法を介護計画に取り入れる事ができている。	担当者が毎月行うモニタリングや日々の支援記録を基に、利用者・家族からの意見や要望を取り入れた介護計画を作成している。定期的な計画見直し以外にも、状況が変化した際には随時計画変更を行い、適切な支援提供に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気付き等をケアに取り込み、実践し記録に残し、会議などを通して話し合いを行う事で、現状に即した介護計画に反映させる事ができている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散髪に関して、家族が馴染みの送迎付きの美容室に行ったり、来所してくれる美容室を利用する等、個人の要望を取り入れている。職員の気付きや利用者様の要望はすぐにケアに取り入れ、実践している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策をした上で、外部のボランティアを呼んでの行事を行っている。直近ではマッサージ・ネイルボランティアや、地域の公民館スタッフが訪問しての紙芝居、法話、保育園児の訪問があった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の際には、1か月の様子を伝えるため、受診記録用紙を作成し、医師及び家族に状態を伝えている。またその際には、困っている事等をお伝えし、アドバイスをもらい、今後の対応に活用している。	入所後も継続してかかりつけ医の受診ができる。受診時には「定期受信票」を作成し、医師に情報提供を行い、助言を受けることもある。情報は家族・職員間で共有し、支援を行っている。訪問歯科診療も受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変時は、法人内の看護職員と連携を取り、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、即座に情報提供書を渡し、情報の共有に努めている。家族や病棟看護師と電話等でのやり取りをし、退院前も現在の状況を把握し、受け入れの体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人及び家族の意向を確認しながら、住み慣れた場所で不安なく暮らせるよう、協力医との連携が出来るような体制作りに　努めている。	入所時に重度化・終末期の方針を家族に伝えると共に、状況変化時には随時本人・家族と話し合っている。看取りの実績もあり、できる限り希望に沿った支援提供ができる体制整備に取組んでいる。	法人指針に基づいた具体的な手順等を明記したマニュアルを整備することで、重度化・終末期ケアに対し的確な支援提供とより深い理解に繋げることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成し、それに基づいて対応している。AEDの研修を実施。その際の動画を撮影し、全職員閲覧できるようにした。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルに沿って、災害時の対処は全スタッフに行っている。年2回の火災避難訓練も行う。	年2回消防署の立会いの下、火災を想定した避難訓練を実施している。地域の防災訓練に参加したことはないが、今後参加することを検討している。	災害時(火災・停電・雪害等)の円滑な連絡体制を整え、適切な避難方法を職員が周知し、さらに地域との協力体制を整えることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に皆と一緒のフロアではなく、日中も好きな時に部屋に入っていただく等、自由に自分の時間を作ってもらっている。人生の先輩として人格の尊重やプライバシーの確保を常に頭に置きながら言葉がけケアを行うようにしている。	利用者のこれまでの生活習慣や人格に配慮した声掛けや支援提供を行えるように心掛けている。安全のために赤外線センサーを使用する際は、目につきにくい場所に設置するなど人格を尊重する対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクや体操への参加、入浴の誘い方、ご飯の量等、自分で選んで決められるように声をかけている。水分補給時の飲み物はメニュー表を見て決めている。また、スタッフに気兼ねなく話しかけられるような雰囲気作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	表情や仕草を見ながら、休息を促したり、天気の良い日は要望に沿って、近場のドライブに外出している。レクの時間だからと言って無理に参加促すのではなく、居室にて過ごされたい場合はそのようにするなど本人の希望を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自室の洗面所を使用して、自分で身だしなみを整えられたり、持参の乳液や化粧水を使用している方もいる。起床時には着たい服を選んでもらったり、外出前には外出用の服に着替えるなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自分のペースで食事してもらえるよう食事姿勢を整え楽に食事を楽しんでもらえるよう工夫している。日常の会話から好きなものを聞き、用意できるよう配慮している。食事作り、片付け等一緒に行い、職員が利用者様に教わりながら食事作りをしている。	ホールに高さの異なるテーブルを配置し、利用者が好きな場所に座り食事を摂ることができる。移動販売車が事業所に来た際には買い物することができ、購入した商品を食事時に食べることができる。行事食やおやつ作りなど食事を楽しむことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	箸が進まない方に対して、おにぎりを作ったり、ふりかけや自家製の梅干し等を提供して、ご飯が進む工夫をしている。朝の会やレクの時間に、脱水について注意を呼び掛けたり、その人に合わせて持ちやすい飲みやすいコップに変更して対応している。水分量が少ない方には、水分ゼリーを作り提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと、定期的に協力歯科医に往診してもらい、口腔内をチェックし、アドバイスをいただいている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に合わせたタイミングや定時での排泄介助を行っている。個人の排尿量をみたり、交換する時間を変えてみたり、パットの種類を変えてみたりと試行錯誤しながら対応している。	各利用者の排泄パターンや仕草などから判断し、プライバシーに配慮しながら声掛け誘導や定時での排泄介助を行っている。日々の生活に運動する機会を取り入れ、自然に排泄できるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝に牛乳を提供たり、水分補給を強化し食事時、おやつ時には水分のおかわりを勧める事で出来るだけ自然排便を促している。夏場は、水分をいつでも提供できるようにキーパーにお茶を入れて提供した。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めているが、その日の体調や気分によって曜日を変更したりしている。午前中に誘うと入る方、昼食後に誘うと入る方など、一人一人のタイミングに出来るだけ合わせて入浴している。	原則として週2回入浴支援を行っているが、利用者の希望に合わせて入浴回数を増加したり曜日・時間変更が可能である。浴室では好みの音楽を流し、ゆったりと入浴することができる。リフト浴も整備し、身体状況が変化しても安心して入浴することができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に居室に戻って休まれたり、フロアのソファで横になったり、眠くなるまでフロアでテレビを見て過ごす、パジャマに着替える等個人に合わせたケアを提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は、各個人台帳に綴ってあり、職員がいつでも確認できるようになっている。。定期受診表を医師に提供し、減薬したり、新しい薬を処方してもらったり、医師と連携しなっがら調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理が得意な方は調理を行い、編み物が好きな方、裁縫が好きな方等その方が楽しんで行える物を探し、考え提供している。（ケアプランにも落とし込み実施している）		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月行事係を決めて、季節に合わせた計画を実施している。また、天気の良い日には外出企画を立てて外出を実施している。日常の食材等の買い出しにも利用者様を一緒に行くことができている。	年間の外出行事が多く、日々の会話の中から希望を聞き外出している。利用者・職員が共に食材の買い出しに出ることもある。事業所周辺を散歩し季節の移り変わりを感じることで気分転換を図り、充実した日常生活が送れるように工夫している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持つことで安心する方もいるので、家族に相談した上で、（小銭程度）持っている方もいる。欲しい物や必要な物等は、家族に依頼もしくは、難しい場合は、預り金（事業所管理）を使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	LINE通話やリモートをしたり、直接電話や自分のケータイを使用し連絡を取っている。個人に届いた年賀状などの郵便物は必ず本人に届けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一日の時間の流れに合わせて、照明を徐々に暗くする工夫をしている。また、食事や入浴時など音楽を流す工夫をしている。フロアの壁面には季節感が味わえるような制作物を飾っている。	落ち着いた色彩であり、廊下には穏やかな光が差し込み設置されたソファーでゆっくりと休息することができる。また壁面には行事の写真や季節を感じられる作品を掲示している。どの空間も利用者が圧迫感を感じることの無い広さがあり、穏やかに過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファーやテーブルを配置する事で、静かに過ごせる空間を作っている。窓の外を眺めながら、ゆっくりとコーヒーを楽しむなど、プライベートな空間の確保にも努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自室の様子を聞き取ったり確認して、出来るだけ自宅での生活に近い形の居室を目指している。また、入居時にご家族様と共に居室に据え置きの家具（ベッド・タンス）のレイアウトを考え配置し、その他は普段使用している家具や家族写真、観葉植物等を持参して頂き飾っている。	使い慣れた家具を持ち込むことができる。壁面に家族写真や作品を飾ったり、小さな収納スペースを本棚にするなどの工夫により、今までの生活環境に近い居心地の良い空間で過ごすことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋だと認識できるよう、マスコットや暖簾を下げて認識しやすい工夫をしている。お風呂場やトイレの場所が分かるように、ドアに張り紙をしている。手すりの設置等、安心安全な環境を提供している。		

（別紙2）　　令和　5　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1870103262		
法人名	一般社団法人　イージーケアネット福井		
事業所名	グループホーム　楽ちんの家　笑楽（既存ユニット）		
所在地	福井市大久保町1-61		
自己評価作成日	令和　5年　11月　21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	令和　5　年　12　月　12　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当法人は、「施設入所イコールどこへも行けない」という概念を取り払い、行事・外出などアクティブな活動を多く取り入れ、「やりたい」「行きたい」「楽しみたい」の実現をモットーに、利用者様と共に考え、利用者様の声を聞きたくさんの行事・外出を実践しています。今年も、感染対策を行ったうえで、年間イベント回数60回以上目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

新棟ユニット同様

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新入社員に対して個別に事業所理念のオリエンテーションを実施。朝礼前に理念の唱和を行っている。また、事業所内に理念を見やすい位置に掲示し意識づけを行っている。	新棟ユニット同様	新棟ユニット同様
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響はまだ続いているが、感染対策を行った上でボランティアの受け入れを行っている。自治会長とは定期的に状況報告や相談等行っている。	新棟ユニット同様	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	R5.7.20　市波町の健康サロンに講師として参加。地域の高齢者を対象に頭を使う認知症予防レクリエーションを実施する。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナが5類に移行した事に加え事業所でのコロナ感染もスタッフ内少数に留まっていた事もあり、5月、7月、9月と対面で行い地域の方々、ご家族様からご意見を頂きサービスに繋げることができている。	新棟ユニット同様	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ほやねっと東足羽包括センターの職員に、毎月広報誌等を持って行き、状況報告や要望などについて聞き、関係作りをしている。地域の関連施設にもチラシやパンフレットを持っていった。	新棟ユニット同様	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に身体拘束廃止についての資料を配布し周知している。玄関の施錠に関しては、日中帯は職員が手薄になる時間帯などやむ負えない場合は施錠することもあるが、施錠しなくても対応できるよう試行錯誤している。夜間帯20時～翌朝8時までは、防犯の為玄関を施錠している。	新棟ユニット同様	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	全職員に虐待防止についての資料を配布し周知している。また、虐待しない為に、アンガーマネジメントの手法活用するよう、現場スタッフに伝えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年も認知症実践者研修やリーダー研修を積極的に受け、権利擁護等に関する知識を取り入れ、職員会議でフィートバックしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約は、時間の調整を行い、代表・管理者が立ち会い、丁寧に説明を行い質問等に答えている。契約者に確認しながら納得が得られた上で、締結している。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所・面会時に日常の様子を説明し、要望や意見を聞いている。要望を言いやすい関係を築けるよう、担当制を導入している。利用者様の意見や要望を日常の会話等から拾い、サービスに活かしている。	新棟ユニット同様	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が働きやすい職場を目指して、月に1回の笑楽会議、法人会議を行い、色々な意見や提案を聞き入れ、業務運営に反映している。	新棟ユニット同様	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ワークライフバランスを考慮し、個人の生活スタイルや体調面等を把握し、個人の提案、要望を聞き入れ、職員が働きやすい環境を築いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修の実施や、自主的に自己研鑚の為に外部研修に参加したい際は、出勤扱いとし、個々のスキルを伸ばし、知識を得る機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症グループホーム協会に加入。コロナウイルス等による制限が緩和されたら相互訪問などの活動をしていきたいと思っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に利用者様及び家族様との面談を行い、要望聞いて取り入れて、安心して生活していただけるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の言葉や家族の感じている根本にある思いを引き出し、ケアに繋げている。家での様子など話を聞き、本人だけでなく家族を含め総合的な視点からその人の生活を把握し、本人らしい暮らしの継続を目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	笑楽での生活で何を大切にしたいか要望を聞き、個々のできる事に目を向けケアに取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	外出等の計画を一緒に行ったり、献立作りや調理、洗濯や掃除など、自宅での生活に沿った内容の提供に努めている。利用者間で協力しながら作業を共に行う事が出来ている。外出なども利用者さまの意向を聞き計画をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の体調や生活上での困り事等は、都度連絡を取り合い相談として決めている。日々の様子を伝えたり、面会時にも本人と家族が気を遣わずに過ごせるよう、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所にドライブや外出を企画している。毎月職員のコメントを添えたお便りを出している。利用者様と共に暑中見舞のはがきを作り送った。コロナウイルスが落ち着いたら、以前のように行事や外出イベントへの家族参加も実施していきたい。	新棟ユニット同様	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアに集まる時間を多く持ち一緒に制作等をしたり、職員が利用者様を巻き込む形で関係作りしている。利用者様同士で相手を気遣う様子や助ける姿も見られる。畑作業者や園芸等の外での活動をより多く取り入れて行きたいと思っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族に笑楽での日常の写真をアルバムにして渡したり、スマホに写真を送付したりした。退所の際は、参加できる利用者様と職員で送り出しをした。退所後にもご家族様に面会したりして繋がりを持つことができた。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的にコミュニケーションを多くとり、利用者様の想いを把握するように努めている。また、プラン更新時期やご家族来所時等に笑楽での様子や状態を伝える事で、ご家族様からも在宅生活時のより深い様子を知る事ができ、笑楽での生活に取り入れている。	新棟ユニット同様	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご自宅にある慣れ親しんだ茶碗等の食器類や家具を持参していただく事で、少しでも今までの暮らし方に近い環境で穏やかに過ごして頂けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の担当を決めて、適宜生活面での困り事や本人の要望を聞くと共に、日々のミーティングや職員会議で情報を共有し、より良いケアの方法がないか話し合いを行っている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の本人の様子やご家族様からの情報をミーティングや介護記録にて共有し、正確な情報を把握する事で解決方法やより良く暮らすための方法を介護計画に取り入れる事ができている。	新棟ユニット同様	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気付き等をケアに取り込み、実践し記録に残し、会議などを通して話し合いを行う事で、現状に即した介護計画に反映させる事ができている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散髪に関して、家族が馴染みの送迎付きの美容室に行ったり、来所してくれる美容室を利用する等、個人の要望を取り入れている。職員の気付きや利用者様の要望はすぐにケアに取り入れ、実践している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策をした上で、外部のボランティアを呼んでの行事を行っている。直近ではマッサージ・ネイルボランティアや、地域の公民館スタッフが訪問しての紙芝居、法話、保育園児の訪問があった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の際には、1か月の様子を伝えるため、受診記録用紙を作成し、医師及び家族に状態を伝えている。またその際には、困っている事等をお伝えし、アドバイスをもらい、今後の対応に活用している。	新棟ユニット同様	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変時は、法人内の看護職員と連携を取り、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、即座に情報提供書を渡し、情報の共有に努めている。家族や病棟看護師と電話等でのやり取りをし、退院前も現在の状況を把握し、受け入れの体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人及び家族の意向を確認しながら、住み慣れた場所で不安なく暮らせるよう、協力医との連携が出来るような体制作りに　努めている。	新棟ユニット同様	新棟ユニット同様
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成し、それに基づいて対応している。AEDの研修を実施。その際の動画を撮影し、全職員閲覧できるようにした。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルに沿って、災害時の対処は全スタッフに行っている。年2回の火災避難訓練も行う。	新棟ユニット同様	新棟ユニット同様

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に皆と一緒のフロアではなく、日中も好きな時に部屋に入っていただく等、自由に自分の時間を作ってもらっている。人生の先輩として人格の尊重やプライバシーの確保を常に頭に置きながら言葉がけケアを行うようにしている。	新棟ユニット同様	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクや体操への参加、入浴の誘い方、ご飯の量等、自分で選んで決められるように声をかけている。水分補給時の飲み物はメニュー表を見て決めている。また、スタッフに気兼ねなく話しかけられるような雰囲気作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	表情や仕草を見ながら、休息を促したり、天気の良い日は要望に沿って、近場のドライブに外出している。レクの時間だからと言って無理に参加促すのではなく、居室にて過ごされたい場合はそのようにするなど本人の希望を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自室の洗面所を使用して、自分で身だしなみを整えられたり、持参の乳液や化粧水を使用している方もいる。起床時には着たい服を選んでもらったり、外出前には外出用の服に着替えるなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自分のペースで食事してもらえるよう食事姿勢を整え楽に食事を楽しんでもらえるよう工夫している。日常の会話から好きなものを聞き、用意できるよう配慮している。食事作り、片付け等一緒に行い、職員が利用者様に教わりながら食事作りをしている。	新棟ユニット同様	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	箸が進まない方に対して、おにぎりを作ったり、ふりかけや自家製の梅干し等を提供して、ご飯が進む工夫をしている。朝の会やレクの時間に、脱水について注意を呼び掛けたり、その人に合わせて持ちやすい飲みやすいコップに変更して対応している。水分量が少ない方には、水分ゼリーを作り提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと、定期的に協力歯科医に往診してもらい、口腔内をチェックし、アドバイスをいただいている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に合わせたタイミングや定時での排泄介助を行っている。個人の排尿量をみたり、交換する時間を変えてみたり、パットの種類を変えてみたりと試行錯誤しながら対応している。	新棟ユニット同様	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝に牛乳を提供たり、水分補給を強化し食事時、おやつ時には水分のおかわりを勧める事で出来るだけ自然排便を促している。夏場は、水分をいつでも提供できるようにキーパーにお茶を入れて提供した。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めているが、その日の体調や気分によって曜日を変更したりしている。午前中に誘うと入る方、昼食後に誘うと入る方など、一人一人のタイミングに出来るだけ合わせて入浴している。	新棟ユニット同様	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に居室に戻って休まれたり、フロアのソファで横になったり、眠くなるまでフロアでテレビを見て過ごす、パジャマに着替える等個人に合わせたケアを提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は、各個人台帳に綴ってあり、職員がいつでも確認できるようになっている。。定期受診表を医師に提供し、減薬したり、新しい薬を処方してもらったり、医師と連携しなっがら調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理が得意な方は調理を行い、編み物が好きな方、裁縫が好きな方等その方が楽しんで行える物を探し、考え提供している。（ケアプランにも落とし込み実施している）		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月行事係を決めて、季節に合わせた計画を実施している。また、天気の良い日には外出企画を立てて外出を実施している。日常の食材等の買い出しにも利用者様を一緒に行くことができている。	新棟ユニット同様	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持つことで安心する方もいるので、家族に相談した上で、（小銭程度）持っている方もいる。欲しい物や必要な物等は、家族に依頼もしくは、難しい場合は、預り金（事業所管理）を使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	LINE通話やリモートをしたり、直接電話や自分のケータイを使用し連絡を取っている。個人に届いた年賀状などの郵便物は必ず本人に届けている。		
52	（19）	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一日の時間の流れに合わせて、照明を徐々に暗くする工夫をしている。また、食事や入浴時など音楽を流す工夫をしている。フロアの壁面には季節感が味わえるような制作物を飾っている。	新棟ユニット同様	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファーやテーブルを配置する事で、静かに過ごせる空間を作っている。窓の外を眺めながら、ゆっくりとコーヒーを楽しむなど、プライベートな空間の確保にも努めている。		
54	（20）	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自室の様子を聞き取ったり確認して、出来るだけ自宅での生活に近い形の居室を目指している。また、入居時にご家族様と共に居室に据え置きの家具（ベッド・タンス）のレイアウトを考え配置し、その他は普段使用している家具や家族写真、観葉植物等を持参して頂き飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋だと認識できるよう、マスコットや暖簾を下げて認識しやすい工夫をしている。お風呂場やトイレの場所が分かるように、ドアに張り紙をしている。手すりの設置等、安心安全な環境を提供している。		